巻　頭　言

教養教育研究院長　太田　めぐみ

2020年4月に全学共通教育（教養教育）を担う組織として、教養教育研究院が発足しました。そこで、この『中京大学教養教育研究』も今年から教養教育研究院が発行することになりました。

『中京大学教養教育研究』は1991年に第1号が発行され、今号で第30号を迎えます。この間、教養教育を担う組織は、教養部、国際教養学部、そして教養教育研究院と変わってきましたが、『中京大学教養教育研究』は、本学の教養教育（と国際教養学部の専門教育）に関する取り組み・活動を掲載し続けてきました。

2019年度の取り組み・活動で強く印象に残っているのは、全学共通教育のカリキュラム改正に関することです。今回のカリキュラム改正は、2017年に国際教養学部と国際英語学部を改組し、教養教育を担う新たな組織を作るという方針が示されたことを受けスタートしました。将来計画委員会での議論、教務課や全学共通ワーキンググループとのやり取りを繰り返して、2020年2月に改正案が教授会で承認されました。この新しいカリキュラムについては、2022年度開始に向け学内の手続きが進んでいます。また、カリキュラム改正の一環として、スペイン語と韓国朝鮮語を全学部で開講することについても検討されました。こちらは一足早く2021年度から全学部で開講する予定になっています。さらに、新しいカリキュラムに「学びの実践」科目群を作ったことを受けて開催されたアクティブ・ラーニングの研修会は、学部としての新たな取り組みの1つでした。

今回のカリキュラム改正は、教授会の承認を以て一段落したと言えますが、現代社会における教養教育のあり方や、本学における教養教育の位置づけについては、この先も常に考えていく必要があります。また、教育の質の一層の向上も図っていかなければなりません。教養教育研究院の発足に伴い、委員会の構成や分掌も変わりましたが、教員間・委員会間で連携をとりながら、教養教育のさらなる発展と教育の質の向上に取り組んでいければと思っています。

2020年9月